

かしの木

第17号

社会福祉法人
せたがや榎の木会
機関誌第17号

2015.5 発行

新年度を迎えて

理事長 岩井雄一

新しい年度が始まり、各事業所においては、新しく利用者を迎えたり、職員の入替わりなど人の動きがありました。

また、今年度はこれまでの上町福祉作業所が、グラン上町という新しい建物となり、上町工房として就労継続支援B型が新築の建物に戻ります。

また、どんぐりホームとして、グループホーム及びショートステイの運用が始まります。

この施設は区の土地を借り受け、東京都及び世田谷区の補助、そして、世田谷区手をつなぐ親の会や榎の木後援会、各事業所等の協力により、多くの方の願いであるグループホーム及びショートステイとなります。

法人としても全力を挙げて取り組んでいきたいと考えます。

引き続き多くの皆様のご支援をお願いいたします。

さて、今年度は職員の異動がこれまでより多くなりました。

これは、異動により法人全体の支援体制の強化や専門性の向上を図ることが目的であります。

実際に人の入れ替わることにより、新たな関係が生まれます。利用者の

方々も職員も、緊張感をもって新たな関係を築いていくこととなります。このことにより、これまでとは違う気遣いや行動などの関係を築いていくための試行的な行動が行われます。

したがって、落ち着かない状況が生じ、問題が起きることもあります。しかし、新たな関係を築くことにより、それぞれの人にこれまでより広がりができると思われれます。社会参加、自立を進めていくためには、このような広がりが必要であると思えます。

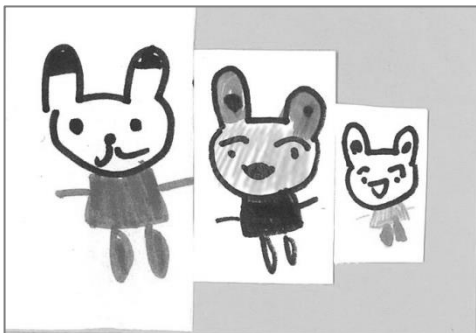
また、職員にとっても新たな出会い、利用者のみなさんとの接し方において、言葉や文章では表せないような、声のかけ方や支援の仕方等について考えるきっかけになると思えます。

弱みを強みに、リスクをチャンスにしていくことが大切です。

また、法人全体としては、福祉サービスの向上を目指し、職員一人一人の経験や役割等に応じた研修制度を設けました。福祉サービスを担当する職員としての人権感覚を磨くことはもとより、支援の在り方に関する知識や技術の向上を目指し、さらに資格取得を支援するものとします。社会の変化に対応し社会福祉の在り方も変化しつつあります。

制度としての社会福祉の在り方にも注目しつつ、法人として利用者やご家族の方々に対するより良い福祉サービスを今後も目指してまいります。

ご理解ご協力を引き続きよろしくお願いいたします。



「うさぎちゃん」



「泳ぐさかなたち」

上町福祉施設の開設準備状況

開設準備室

室長 島澤 広樹

今年度より、上町福祉作業所の所長と六月から事業開始予定のグループホームやショートステイの開設準備をする開設準備室の室長を務めることになりました島澤広樹です。どうぞよろしくお願ひします。

今年度の上町福祉作業所は色々な意味で新たなスタートを切る年になります。まず、建物が変わります。昨年度から行っていた建て替え工事でも無事終わり、とても立派な施設が出来上がり、新たな建物の名称は「グラン上町」と名付けられました。

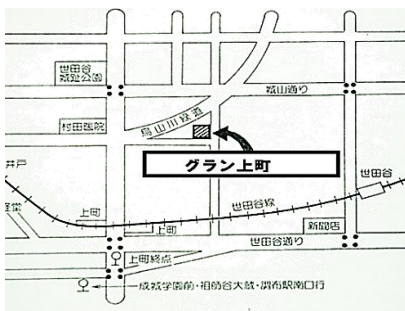
また上町福祉作業所も新施設移転後に、利用定員を五名増員し名称も「上町工房」へと変更することとなりました。

「工房」を名乗る以上、これまで以上にお仕事を頑張り、新たな魅力あふれる製品を世に出していきたいと思っています。

また、法人として初めての事業であります、グループホーム、ショートステイ事業、事業所の名前も「どんぐりホーム上町」と名付けられま

したが、こちらにも順次実施する予定となっております。

事業所の名称、実施する事業、支援を担うスタッフも変わり、皆で丸となり「世田谷区の障害児・者が住み慣れた地域で、安心して自立生活を続けられるよう質の高い福祉サービスを提供し、支援します。」という法人のミッション達成に向けて頑張っていきたいと思ひます。



所在地	世田谷区世田谷 3丁目9番1号（世田谷線「上町」駅 徒歩6分）
建物名称	グラン上町
対象者	主に18歳以上の知的障害のある方
事業内容及び定員	①就労継続支援B型事業「上町工房」 定員25名 ②グループホーム「どんぐりホーム上町」 定員5名 ③短期入所「どんぐりホーム上町」 定員2名
開設日	6月1日 ①「上町工房」 ②グループホーム「どんぐりホーム上町」 8月1日以降 ③短期入所「どんぐりホーム上町」
建物	鉄筋コンクリート造 3階建て 1階：上町工房（作業スペース等） 2階：上町工房（食堂等） どんぐりホーム上町（食堂・浴室等）、短期入所（居室2室） 3階：グループホーム（居室5室・浴室等）

世田谷区手をつなぐ親の会

世田谷区に在住する知的障害者が安心して地域で自立した生活を継続できるよう知的障害者の権利を守り、その福祉と教育の向上を図ることを目的として活動しています。

〒154-0022

世田谷区梅丘 1-24-14 フリート梅丘 301

TEL 03-3706-0067

FAX 03-3706-0246

URL <http://oyanokai-setagaya.com>

指定管理者として

指定を受けました

世田谷区立千歳台福祉園

施設長 伊藤 俊平

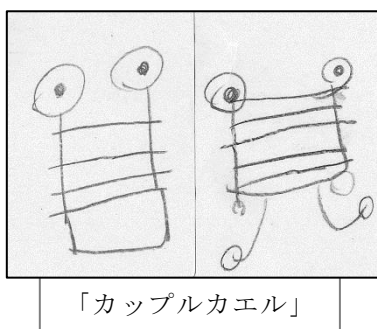
指定管理者制度は住民サービスの向上と経費削減を図ることを目的に、平成十五年六月の地方自治法改正に伴い創設されたもので、公の施設の管理について民間事業者等の参入を可能とするものです。

せたがや櫛の木会では、世田谷区立千歳台福祉園及び世田谷区立下馬福祉工房が、平成十七年度から平成二十一年度、平成二十二年度から平成二十六年年度の二期に渡って、指定管理者として運営を行ってきました。そして、この度千歳台福祉園、下馬福祉工房ともに、引き続き平成二十七年年度から平成三十一年度までの五年間、指定管理者として指定を受けることができました。

三期目の指定管理者として指定を受けるにあたっては、五月中に指定管理期間である二十七年年度からの五年間の事業計画書・予算書等の作成及び提出、六月から七月にかけて指定管理者選定委員会による書類審査・ヒアリング、九月に区議会の議決

を経る必要がありました。千歳台福祉園、下馬福祉工房ともに新施設長という体制の中、法人内外の様々な方の協力を得て指定を受けられたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。

今後とも、指定管理施設としての責任をしっかりと果たしてまいりますので、よろしくお願いいたします。



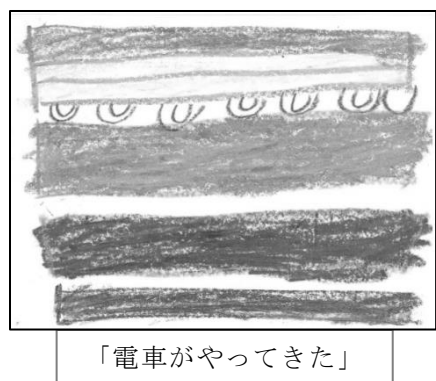
縁を感じて

大原福祉作業所

所長 大野 正志

四月より、大原福祉作業所の所長に就任いたしました大野正志といたします。

どうぞよろしくお願いいたします。この度のお話を頂いた時に何か不思議な縁を感じました。それというのも、私は平成元年から九年間都立青鳥養護学校に勤務しておりました。



その後、平成二十年まで世田谷区内の特別支援学校に勤務しておりました。大原福祉作業所や櫛の木会の利用者さん、保護者の中には青鳥時代に出会った方々もいらして非常に懐かしく感じております。また、大原福祉作業所が現在の場所に移転した当時、故・脇坂勝男さんや堀田和子元所長、佐藤和貴前所長や職員の方々が利用者さんのためにとお祭りや宿泊など、新しい事業を計画し、苦労して実行していた時代をよく知っています。それに、私自身が自主生産品のTシャツ作りなどのお手伝いをしていたこともあり、当時のことがとても強く印象に残っているからです。

今まで築き上げてきたものを大切にしながら、より一層素敵な大原作業所になるよう努力したいと考えています。

利用者会・用賀の仲間が

教えてくれること

用賀福祉作業所

所長 伊能 亮

毎週金曜日の午後三時からご本人たちで運営する「利用者会」を行っています。リーダー二人、書記一人を自分たちで決め、全員が一年に一回は役割を担い、自分たちでいろいろな事を話し合い決めます。時間になると職員の声かけ無しに、ほぼ全員が席について待つ姿には毎回感動させられます。座れない方に対しては仲間が優しく声を掛けてくれて、座れる場面も良く見られます。リーダーが点呼をとると皆、自分が呼ばれるのを心待ちにしている、活き活きと返事をします。点呼をとるリーダーも誇らしげです。

先日は宿泊旅行の行先を話し合いました。「ソーセージ作り」「温泉」「スーパードで買い物」「魚釣り」「カラオケ」「茶摘み」「ゴルフ」・・・用賀のステキなところは決まった方だけではなく全員に意見を聞いてどんな意見でも仲間が肯定的に捉えてくれるところです。否定されない安心感の中で一人ひとりが主体的になれる

るのでしよう。そんな仲間関係が用賀のアットホームなムードを作ってくれています。すぐに他者を否定してしまいがちな今の世の中に一番必要とされていることを用賀の仲間が教えてくれます。

大切にしたいこと

喜多見福祉作業所 安達 みち子

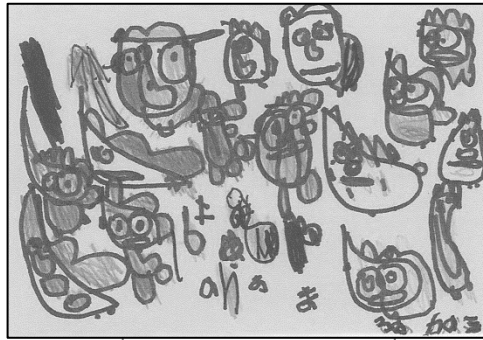
新年度に入ったこの時期、喜多見福祉作業所は、ちよつとした揺れを感じています。それは、職員の定期異動に端を発した人的環境の変化によるものと思っています。

喜多見では、昨年の所長、今年の支援員と異動が続きました。この機会に刷新する面もありますが、とりわけ「何を大切に保っていくのか」に関して、繰り返し考えさせられています。利用者の姿と職員による支援を振り返る夕方のミーティングは、その熱い思いとともにいつの間にか言葉が増え、積極的になってきている利用者の変化の気づきを確認しあう場になっています。

そして、報告しあう中から「利用者一人ひとりの楽しさ喜びに共感する」「人との交わりを一層豊かにしたい」「自発性を大事にする」に行き着

きました。これからも、いろいろな揺れに直面するでしょうが、チームワーク良く、丁寧に臨みます。

満開の桜が、新緑へと移り、フットベースボール大会の頃には、すっかり遅しくなって全力で駆ける利用者の姿と支える職員の元気な試合振りをお目にかけるに違いありません。是非、応援よろしくお願いします。フアイト!



「みんな集まれ」

就任のご挨拶

わくわく祖師谷

施設長 松田 輝美

この四月より、わくわく祖師谷施設長として、就任いたしました。あわせて理事と評議員についても拝命いたしました。ご期待に添えるよう微

力ではございますが、精一杯務めさせていただきます。これまでの「せたがや櫨の木会」の設立趣旨と歴史に学び、更なる発展、利用者支援の向上に力を注いで参ります。「わくわく祖師谷」の施設運営については、生活介護と継続B型の活動が、利用者一人一人にとって有意義なものとなるように、進めて参ります。皆様の忌憚のないご意見等をお寄せいただき、改善し、良い方向に進められるように努力して参ります。最後になりましたが、簡単に自己紹介をさせていただきます。都立特別支援学校4校の教員そして4校の管理職を務め定年退職しました。現在は、白梅学園大学で特別支援教育を担当し指導しております。新年度も、全職員が心を一つに日々努力をして参ります。皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

お世話になりました!

堀田 和子

ここまで長い道のりでした。人との出会いがありました。六歳の時から関わった教育大学学生だった家庭教師との出会いから始まり、その恩師が品川区の心障学級教員時代に、品川区の特殊学級の補助員をするこ

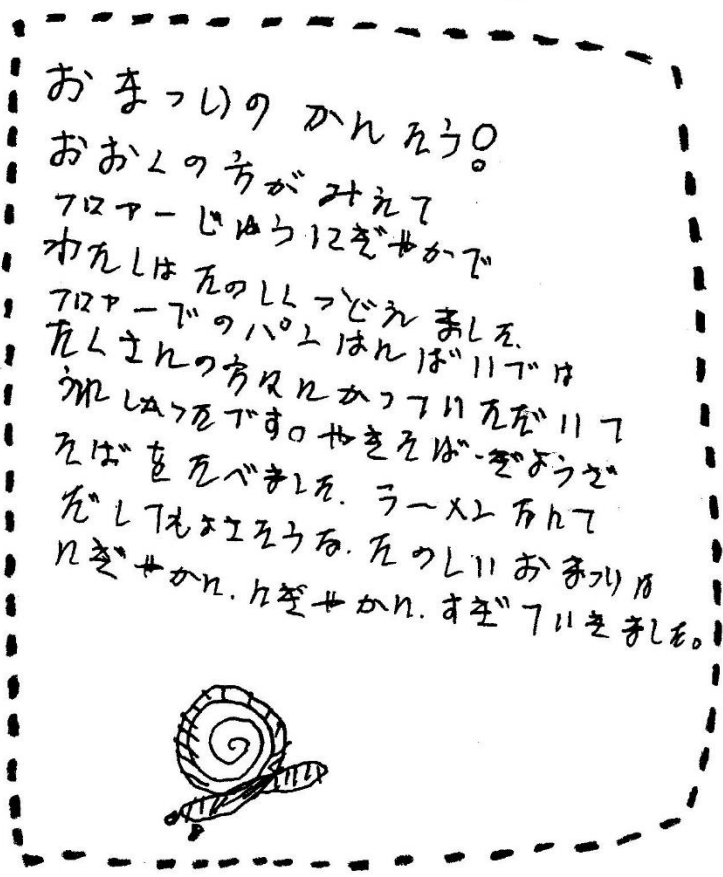
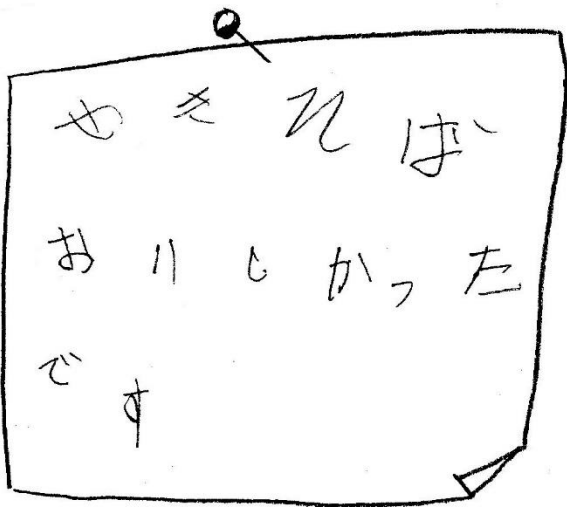
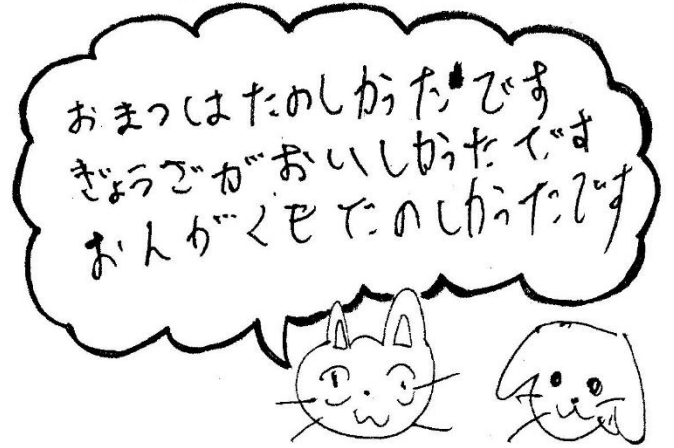
とで障害児との出会いにつながりました。小学生、中学生の指導から青鳥養護学校(現特別支援学校)での高校生の指導、そして皆さんと一緒に卒業して大原福祉作業所へ。この時期の出会いには脇坂氏。脇坂氏は青鳥の教員を経て大原福作の立ち上げから関わり、平成七年四月、志半ばにして逝去。この志を継ぐ形で大原福作の運営に従事する中でグラウンドデザインから自立支援法へと大きな変革を経験しました。そして、平成二十年のせたがや櫨の木会への法人化。二十一年のわくわく祖師谷開設。十五名の利用者からの出発。現在は法人内で一番規模の大きな事業所、利用者六十五名、職員三十五名になりました。この間、国際障害者年から少しずつ障害者を取り巻く状況は良い方向に向かっています。特に今回の障害者権利条約の批准は今後の環境を更に進めていく基盤となることと思います。この三十年、私自身の考え方は大きく変わって来ました。支援者が取り組むべき課題は、障害そのものではなく、生活する上で生きにくいこと。「障害」であると思えます。皆さま、お元気で。楽しく生きていきましょ!

利用者ひとことコーナー

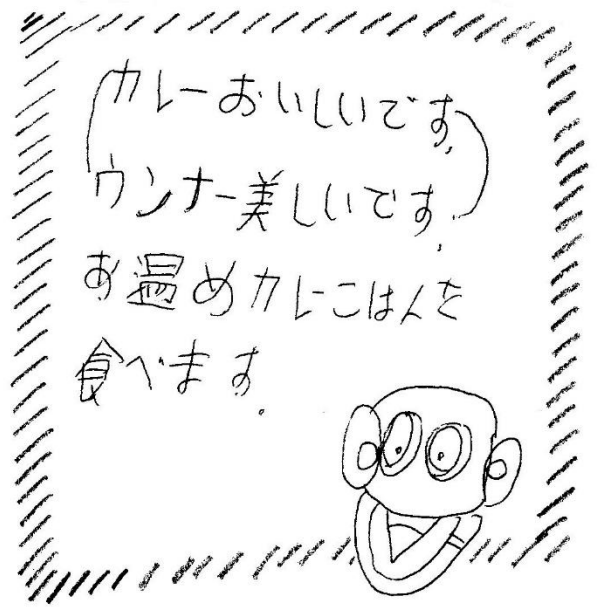
わくわく祖師谷

2015.3.7 砧地域支えあいフェスタ

焼きそば、餃子、カレーライス・・・
たくさんのお店でにぎわいました！



ダンスクラブや音楽クラブの発表、
美術クラブのアート体験なども、
とってももりあがりました★



職員人事のお知らせ

施設長等の任命・異動 (四月一日付)

わくわく祖師谷
施設長

松田 輝美

わくわく祖師谷
副施設長

佐藤 和貴

相談支援センターあい
所長

松田 輝美

大原福祉作業所
所長

大野 正志

上町福祉作業所
所長

島澤 広樹

ヘルパーステーション榎の木
所長

佐藤 勝

施設長の退任

(三月三十一日付)

わくわく祖師谷
施設長

堀田 和子

職員の異動

(四月一日付)

ヘルパーステーション榎の木
主任 三浦 孝博

相談支援センターあい
主任 中川 邦仁丈

千歳台福祉園
支援員

坪上 知美

わくわく祖師谷 (生活介護)
支援員

三浦 圭介

支援員

鈴木 麻子

わくわく祖師谷 (就労B型)
支援員

岩澤 辰洋

大原福祉作業所
支援員

横田 明生

上町福祉作業所
支援員

長見 亮太

喜多見福祉作業所
支援員

小弓場 成樹

上町福祉施設開設準備室
支援員

紀平 訓江

新規採用

(四月一日付)

千歳台福祉園
支援員

吉崎 豪

下馬福祉工房
支援員

和多田 陽

わくわく祖師谷 (生活介護)
支援員

渡辺 了一

支援員

宮城 武明

わくわく祖師谷 (就労B型)
支援員

阿部 里枝

ヘルパーステーション榎の木
支援員

長澤 千恵美

本部事務局
事務員

松本 謙介



「りんごくんへ」

上町福祉作業所のみなさんから本紙へ6点の作品等を提供していただきました。ありがとうございました。

～編集後記～

榎の木に新しい実がなりました。この「どんぐり」から芽が出て、たくさんの幸せな笑顔が咲くように、職員一同頑張りますので、ご協力の程、宜しくお願いいたします

編集発行

社会福祉法人せたがや榎の木会

〒155-0033 東京都世田谷区代田 1-29-5

TEL 03-5481-1010

FAX 03-5787-4051

E-mail setagaya-kasinokikai@poppy.ocn.ne.jp

URL : http://kashinokikai.net